

令和元年度中学校武道授業（弓道）指導法研究事業



1年生：全員で射法八節

令和元年度中学校武道授業（弓道）指導法研究事業（主催＝日本武道館・全日本弓道連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁、栃木県教育委員会、栃木市教育委員会）は9月19・20日、栃木県栃木市立大平中学校で研究者6名が出席して行われた。本事業は平成24年度から完全実施された中学校武道必修化の充実へ向け、弓道の特性を踏まえた指導計画、指導内容、指導法、評価などについて研究協議をするものである。

今回会場となった大平中学校では、平成27年から弓道授業を行っている。岩本裕美研究者（同校保健体育科教諭）は、弓道未経験であったが、大平中学校への赴任をきっかけに弓道授業に取り組むため、全国弓道指導者研修会に参加した。最初の3年間は、外部指導者の協力を得ながら授業を行い、昨年からは岩本研究者のみで授業を行っている。体育授業は男女に分かれた2クラス合同で行われ、女子生徒は弓道を、男子生徒は剣道を学んでいる。今回は、3学年それぞれ1時間ずつ弓道の授業を視察し、研究協議は授業の振り返りを中心に行われた。

■開講式

はじめに、中島昭博^{なかじまあきひろ}日本武道館振興課長が挨拶

に立ち、「中学校武道必修化は8年目を迎え、2年後の新学習指導要領には武道9種目が並列明記されます。また、今年度はスポーツ庁が外部指導者を活用した複数種目モデル実践校の予算事業化を図りました。外部指導者を広く活用することにより、種目の幅が広がり、弓道実施校を増加させることができるチャンスとなります。本事業では先生方の知恵を集め、生徒が主役の安全で楽しく効果の上がる弓道授業の研究をしていただきますよう、よろしくお願い申し上げます」と述べた。

次に、三池真幸^{みいけまさき}全日本弓道連盟事務局次長が挨拶。「本連盟では弓道授業実施校に対して、弓具の寄付を行ってきました。大平中学校では、栃木県弓道連盟の先生方の協力を得ながら、弓道授業を実施いただいております。本研究事業において、弓道の特性を踏まえた指導法・指導内容についてご検討いただき、弓道授業を通じて現在失われがちな礼儀作法や姿勢を身に付けることができますよう期待いたします」と述べた。

続いて、砂川博史^{すなかわひろし}大平中学校校長が「ようこそ、大平中学校へ。本校では弓道部が全国大会で優勝するなどの活躍により、生徒は弓道になじみがあり、親しみを持ちながら弓道授業に取り組んでいます。研究事業を通して、本校の授業にも助言を

いただきながら、実のある研究事業となりますことを期待しております」と挨拶を述べた。

■1年生（19日）

10時間授業のうち、5時間目にあたる授業では、はじめに準備運動、ランニングを行い、本時のねらい「矢番え^{やつが}をして的に向かって横一文字離れに挑戦しよう」を確認。弓道部員は胸あて・ゆがけを付ける手伝いの後、射場からの的に向かい矢を放って見本を示した。その後は、全員で紐弓を使って射法八節を確認した。半分の生徒はゴム弓や紐弓を使って射法八節を練習、半分は岩本研究者指導の下、的に約5メートル離れた場所で初めて矢を放った。的はアーチェリーの的を段ボールに貼り使用した。



1年生：初めて矢を放す様子

■2年生・3年生（20日）

10時間授業のうち2年生は9時間目、3年生は7時間目の授業。2・3年生ともに準備運動・ランニングの後、胸あて・ゆがけをスムーズに付け、本時のねらい「正しい射法八節で弓を引こう」を確認。弓道部員が一立ち目に入り、最大6人で射場からの的に狙った。①弓を引くグループ②構えて待つグループ③準備をするグループ④その他のグループは、弓道場の脇でゴム弓、紐弓を使って射法八節を練習した。3年生の中には、弓道部員以外でも離れから残心を意識して行っていた生徒もあり、学習の成果が十分に見られた。

■研究協議（19・20日）

桑田秀子^{くわたひでこ}研究者の司会進行のもと、視察を行った授業の振り返りを中心に研究協議を行った。30名の生徒を対象にした授業を一人で指導すること



2年生：岩本研究者による指導



3年生：グループごとに待つ様子

や、安全面、弓道部員の活用などについて、活発な討議がなされた。

1年生の矢番え授業については、「矢番えの指導は重要であり、一斉指導は難しいため、この矢番えの時間にあたる授業だけでも外部指導者を取り入れた方が、よりスムーズで安全な指導になるのでは」という意見が出された。

また、運動量の確保が難しいとされている弓道授業において、「腕立て伏せ、バーピージャンプを取り入れた準備運動や弓道場の近くをランニングすることによって、しっかり運動量が確保されていた。一方で、弓道場で弓を引くグループを待つ間、射法八節を行う生徒たちの中には休憩をしている生徒も見られたので、見て学ぶポイントを提示した上で、見取り稽古をさせることも指導の一つである」との意見も出された。

■閉講式（20日）

研究者を代表して桑田秀子研究者が講評を、中島昭博日本武道館振興課長、砂川博史大平中学校校長が挨拶を述べ、2日間の日程を終了した。